

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2571500194
法人名	株式会社ドリエジョ
事業所名	ゆめさとグループホーム
訪問調査日	平成 19 年 7 月 27 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 27 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2571500194
法人名	株式会社 ドリエジョ
事業所名	ゆめさとグループホーム
所在地	滋賀県蒲生郡日野町西大路井上434-2 (電話)(0748)53-8723

評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成19年7月27日	評価確定日	平成19年8月27日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 19日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	4 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 11 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	有(200,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(7月 27日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名	
要介護1	2 名	要介護2	7 名			
要介護3	6 名	要介護4	3 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鎌掛診療所 松村昭
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設6年目を迎えた事業所は広々とした田圃の中にあり、空気のよい自然環境に恵まれている。前面は畑を挟み地元の住宅地があり、背面には地方主要道路が走っている。デイケア施設と併設されており、これらの施設も上手く活用し、デイサービスの人たちとも打ち解け合って生き生きとしたグループホームとなっている。介護保険制度の改正によって地域密着型としての理念が強調されるようになったが、まだその理念が十分に浸透しているとは言えないところがある。しかし、地域の種々の行事に積極的に参加し、地域住民や小学生、老人会との交流を深めようとしており、新しい方向を目指して今後の進展が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	契約書・重要事項説明書の入居者権利の明文化は、まだ手直しが必要である。見切り縁や台所の流し台が高すぎる問題は、調理用には食堂内のテーブルを使用するなどして改善が図られている。また便座も一部低い便座に切り替えている。職員の急病・緊急の休み対策にはデイサービスからの応援や職員同士が融通しあうなど改善が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を全員で取り組む意義を理解し、評価基準を高く設定して多くの取り組み課題を挙げ改善策を検討するなど前向きな姿勢が窺える。今後、事業所全体で解決能力を向上し、検討結果が改善に結びつくよう取り組んで欲しい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所の取り組みを報告し、意見交換しながら、地域につながるサービスが生かされるようにしている。また老人会の代表者や地元自治会の役員などの参加を求めて交流会などを計画している。職員が忙しすぎ目が届かないところもあるので、特に外出時の見守り等にはボランティアを受け入れ活用することも検討されたらと思われる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見を出される家族も居られるが一部にとどまっているので、家族の意見の聞き方や連絡方法を改善してほしい。家族会の設立には家族の負担が大きいとの意見があるので、別の取り組みとして、入居者と家族を交えた交流の場をもっと頻りに持ち、積極的に意見を出してもらおうなどの取り組みを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人たちと一緒にお花見に行ったり、イチゴ狩りをしたり、納涼会やお祭りにも家族と一緒に参加するなど各種行事に参加している。さらに小学生の訪問や学校行事への参加なども取り入れられている。今後は老人会との交流会も計画するなど、地域との連携に積極的に取り組み、入居者や職員が地域の人々と顔見知りになることを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当初より、独自の理念を作り上げているが、地域密着型としての介護保険制度改正や入居者の状況変化に応じた形での理念の運用の徹底が十分ではない。		地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えるという役割を考えた理念の生かし方を更に徹底して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングや日々の業務の中で話し合いを行い共有の努力をしているが、理念の徹底が十分でないため、職員個々の判断により動いている部分もある。	○	理念を職員全体で共有するために、掲示、唱和、会議などでの徹底を行って欲しい。いろいろの事態において理念に基づいた判断がされているかを検討し、またその判断・処置事例を共有していく事が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭など地域の行事に参加して地元の人々との交流を図っている。また、地元小学校の生徒の訪問があり、また学校行事にも参加している。音楽会に楽しく出演したりして、親睦を図っている。		地域行事への参加を今後も積極的に取り組んで地域の中にとけ込んでいって欲しい。また、地域の老人会、小学生との交流などにも取り組み、出来れば小学生たちの絵画を壁に貼ったり、一緒に歌を歌うなど親睦の場を増やしてゆくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を全員で取り組む意義を理解し、事業所全体として評価を活かした方法・手段の改善に取り組む努力をしている。しかし昨年度の外部評価で指摘された課題の全てを具体的な改善に結び付けるまでには到っていない。		運営者・管理者は自己評価および外部評価での検討内容をしっかり踏まえた上で、事業所全体が評価結果を更なる改善に結びつける努力を今後も続けられることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各地区の民生委員、老人会代表、地域包括センター職員等の参加を得て2回ほど運営推進会議を開催して入居者の状況・グループホームの現状の説明、今後参加していただける行事の検討等が行われている。但し、外部評価の内容の報告がなされていない。		運営推進会議に自治会長、利用家族の参加も得られるよう努力していただきたい。また席上、自己評価や外部評価の内容なども充分討議されることを期待したい。徘徊にたいして地域の方々の協力を得て安全が確保されるよう一層の働きかけを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	個々の事例に応じた相談をしている現状であり、事業所の現状を理解してもらえよう努力している。		市の健康福祉担当者等と利用者の健康問題や予防接種などについて具体的に相談するなど一層交流を深めてもらいたい。市職員の研修の場として、出来れば施設を提供するなど、より緊密な関係が築かれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者ひとりひとりについて身体の状態・精神面・ケア面についてまとめ、金銭面の報告も一緒に送っている。		家族への報告だけでなく、家族からの要望、どのような情報を家族は欲しがっているかなども聞き出す工夫をして欲しい。ホーム便りなどを定期的を送るのも一つの方法である。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの不満、意見などはミーティングなどで話し合い、解決しているが、家族が外部者に意見を述べる機会を設けるまでには到っていない。		家族会あるいはそれに代わる会合などを開催し、家族同士の集まりで意見を出しやすくするような環境づくりを更に工夫すると共に、苦情への対応を話し合い、一層の質の向上を目指して欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は基本的に固定とし顔なじみの職員に依るケアを心がけている。やむを得ず職員が移動するときは、入居者に不安を与えないように引き継ぎや情報収集を行って慎重に対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育成するための計画は立てられていないが、ミーティングや勉強会などで研修会で得た内容を紹介し全職員が理解できるように取り組んでいる。	○	職員個人毎の育成目標を立て、年間計画の中に組み込みキチット位置づけて欲しい。新しい職員には、OJTの指導担当者を当てることを組織として決め確保するようにして欲しい。研修した職員だけでなく、他の職員もそのときの資料等を利用できるようにして欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス事業者協議会のグループホーム部会や、他事業所との情報交換、勉強会などに参加している。		グループホーム部会の役員をされることになっているので、積極的に他の事業所へ呼びかけ勉強する機会や情報交換する場を持ち、交流を深めていかれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族と会い、対応できる状況を理解してもらった上で、サービスを開始している。本人や家族の希望・身体状況・精神状況を職員に伝え、月に一度見直しのための会議を持っている。		専門医受診などを行い、適切な判断・意見を求めると共に、入居希望の方に出来るだけ見学等を促し、安心してサービスを受けられる雰囲気作りをして欲しい。加えて、個人毎のフェイスシートなどで入居前の生活状況などを把握する工夫も望みたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話や食事準備、料理の仕方などを通じて職員が学ぶことも多く、お互いが協力し支え合いながら生活を楽しむ関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から希望や意向などを確認している。日々の関わりの中では本人の意思疎通が難しい場合もあるが、さまざまな働きかけをして希望を叶えるように努力している。		入居者の状況変化などをどのように共有し合っていくかについて具体的な解決策を検討し実施されることを望む。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴などを考慮した介護計画を立てていても、介護レベルの悪化などにより反映できていない場合もある。また家族からの意見がそれほど聞き出せていない。		日常生活の中で本人の思いなどを聞き取り、介護計画に反映して欲しい。家族の方の意見・要望を更に取り入れて計画を練ると共に、それを計画作成者とチーム担当者との会議でも徹底されることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状の変化に応じての介護計画の見直しが必ずしも的確には行われていない。介護計画について家族の方との話し合いも充分できていないと言いたい。	○	まず3ヶ月毎に介護計画の見直しを確実に実施すると共に、状況変化に応じた見直しを実行して欲しい。月1回のカンファレンスやモニタリングとともに、家族への連絡を通じて要望を把握し、生かして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	専属医師の往診・受け入れ先病院などの利用、包括支援センターへの相談などで対応している。	○	今後、看護師の採用も検討中であるが、医療連携体制を確立するとともに、職員の質の向上などで事業所自体の質の向上を図り、柔軟に対応できる支援体制の構築に向け努力して欲しい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族の希望がある場合には、今までかかっていた医師に継続診療してもらっている。そうでない人は事業所の協力医により、月1回の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた医療面を医師から聞き、また家族と話し合う場が持ていないことが多い。ターミナルケアができる体制ではないが、今後受け入れ先を確保できるよう検討されている。	○	早い段階から終末期に向けた考え方を家族の方と話し合う場を設け、本人・家族の方の状況・希望を考慮して終末期のあり方についての考え方を家族と共有化して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報人目につかないように配慮している。また居室の整備やトイレ介助などはさりげなく行い、また場にそぐわない言動についても否定することは避けている。言葉かけについては職員間の個人差があるようである。		プライバシー保護や個人情報漏洩防止についてはミーティングや研修会などで学ぶ機会を設け、職員間の個人差を少なくする事に取り組まれることを望む。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出希望や買い物希望にはできるだけ対応しているが、身体介護に時間がかかる方が増えてきているため、外出が優先できないこともある。		希望者の外出は、できるだけ実施する方向で対応し、外部からのボランティアなどによる見守りによって、職員の負担を軽減する工夫をして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑があり、旬の野菜などを入居者と収穫し、その食材を使って一緒に調理をしたり、盛りつけや後片付けをしている。		ディサービスと共同での調理メニューを検討して栄養面だけでなく、好みも考慮するような工夫も期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴好きな人や毎日入りたいという人には、その希望を叶える努力をしている。ただ、職員のシフトに応じてその時間内に入るようにしてもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備や家事などその人にできることをしていただき、またデイサービスのレクリエーションや地域の行事への参加、外出を支援している。ただ、現状では受身的な人が多く、各人それぞれに得意な面での参加ができるように考えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在一人で外出できる方はいないので、本人の希望があれば日程を調節して外に散歩に行ったり、季節感を感じてもらえる努力をしている。希望を出さない受身的な人には、行事を計画して参加してもらっている。	○	外出についてはボランティアを募って見守りを行うなどで希望を実現したり、本人や家族の方の希望を聞き、故郷に行きたい人にはその希望を叶えてあげることも検討して欲しい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、鍵を掛けないケアの方針を理解し実践しているが、職員の人員や入居者の状況によってはやむを得ず鍵を掛けることもある。外に出られた場合でも地域の方に協力していただけるように働きかけは行っている。	○	今後徘徊、外出願望の強い方が入居されることも予想されるので、敷地内での自由な行動をできるだけ取り入れることを検討して欲しい。また地域の人々に入居者の顔をよく知ってもらい、対応しやすいように協力支援を要請して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成し、避難訓練は行っているが、いざというときには動揺が見られる可能性がある。地域と連携した訓練はまだ行っていない。		ゆめさと地域協力隊を発足し、演習に取り組み、今後地域との連携体制を整えて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週3日は「タイヘイ」によりカロリー計算された献立に基づき調理している。個人の状況変化への対応をミーティングで検討し見直しを行っている。例えば、水分を自分であまりとらない方には、摂取を促すようにしている。	○	定期的に栄養士や専門的な視点からのアドバイスや献立のチェックをするようにして欲しい。カロリーだけではなく一日の塩分量を考慮して献立を作成されることを望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	園芸・環境担当を設けて、生活感や季節感が感じられる飾りやテーブル上への生け花などで居心地よく生活できるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っておられた家具やなじみのある物を持ち込んで使うように話し合っているが、入居時に購入している場合が多い。畳での生活を希望される方には、洋室でも畳を敷いて和室として使ってもらおうよう配慮している。		あくまでも、なじみのある家具や物を使うことが基本であることを、入居前に入居者や家族と充分話し合ってお対応されることを望みたい。